

## とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都西東京市富士町 1-7-2
園名	西東京市立ひがし保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

形～いろいろな形をつなげてみると…～

<テーマの設定理由>

普段の遊びの中で、ブロックや積み木で構築したり、作ったものでイメージ遊びを楽しむ姿が多く見られる。そこでさまざまな形に触れながら、形の変化や作り上げた達成感を味わい、更にイメージを膨らませていけるようにこのテーマに設定した。

### 2. 活動スケジュール

- ① おもちゃを使ったかたち遊び（10月）
- ② 粘土遊び（10月）
- ③ 積み木遊び（11月）
- ④ 大型積み木遊び（12月）

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ① マグペッタン、ホワイトボード
  - ② 粘土
  - ③ 色付き・なし積み木、カプラ、木製ドール
    - 保育室内の広いスペースで活動できるように設定
  - ④ プラフォーミング、マジックマット、くぎってフェンス、プロジェクター、スクリーン、実物投影機
    - ホールの広いスペースで活動できるように設定
- ・ビデオカメラ

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ①丸、三角、四角のマグネットを使用し、仲間分けや構成遊びを行う
- ②素材の感触を味わいながら、友だちと協力して粘土遊びを行う
- ③積木遊びを通して、かたちの組み合わせやバランスを考え高く積み上げる遊び、イメージを広げて積み木を構成し人形を使ってごっこ遊びを行う
- ④前回の活動内容の写真や積み木の世界を映し出して共有した後、プラフォーミングを使用し、積み木の世界に入り込みイメージを広げてかたちを構成する遊びを行う

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ① それぞれのかたちの特徴に注目する中で「まっすぐ(辺)がない」「まっすぐが4個つながってる」と違いに気づく姿があり、友だちと一緒に町やロボットなどを作ることを楽しんでいた。
- ② 粘土はかたちであるか?の問いかけには「丈夫じゃない」「ぐにゃぐにゃ」とかたちではないと答える声が多かったが、何かをかたち取って見せると悩みながらも、かたちだと答える姿があった。粘土を触り、「気持ち良い」「柔らかい」という声もあった。2、3人でやりとりをしながらイメージを広げ、保育園やペット屋さんなど作っていた。
- ③ 一人でじっくりと取り組む姿もあったが、自然と数人で集まり「えいえいお〜!」と気合いを入れ合い協力して高く積む姿もあった。どうしたら高く積めるか考え、失敗すると別の方法でチャレンジしていた。作り上げたものをお城などに見立てて人形を使ってごっこ遊びに発展する様子もあった。
- ④ プロジェクターに映したものを見ながら、「今日はみんなが積み木の世界に入ってみよう」と伝えると「え〜!」と驚きながらも喜んでいた。プラフォーミングなどを組み合わせ、少人数でお風呂やリビングなどを作り、役割を決めてごっこ遊びに発展していた。遊びが広がるにつれ、いくつもの小さな家をつなげ始める子があり、最終的には全ての家がつながった。



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・抽象的なイメージである「かたち」を子どもたちなりに捉え、違いや感じたことを言葉にしており、辺の差などにも気付いている姿に驚いた。
- ・自然と子ども同士で協力し、失敗しても新たな工夫で何度も挑戦を重ね、よりよくなる方法を考えている姿を見て、そこから新たな発見や学びにつながったり、友だちと一緒に取り組む面白さや達成感を味わっているのだと実感することができた。
- ・イメージを広げかたちを組み合わせる中で遊びがより発展し、イメージの共有を通して友だち同士の関わりがさらに活発になっていると感じた。
- ・いつも使っているおもちゃでも十分な量があり、広いスペースを用意することで、より遊びが広がり長い時間夢中になって遊ぶことができるのだという気づきにもつながった。